

第5問
20点

当工場では原価管理を効果的に行うために標準原価計算を採用している。次の資料にもとづいて、以下の各問に答えなさい。

- 問1 直接材料費差異を計算し、分析しなさい。
問2 直接労務費差異を計算し、分析しなさい。
問3 製造間接費差異を計算し、公式法変動予算を前提に分析しなさい。なお、能率差異は（標準配賦率）×（標準直接作業時間－実際直接作業時間）で計算する。

〔資料〕

1. 当月生産データ

月初仕掛品	0個
当月投入	<u>2,500</u>
合計	2,500個
月末仕掛品	<u>200</u> (50%)
完成品	<u>2,300</u> 個

* 1 直接材料はすべて工程の始点で投入される。

* 2 () 内は加工進捗度を示す。

2. 製品1個あたりの標準原価

直接材料費：500円/kg × 10kg/個 = 5,000円

直接労務費：800円/時間 × 5時間/個 = 4,000円

製造間接費：900円/時間 × 5時間/個 = 4,500円

合計：13,500円

3. 製造間接費変動予算

変動費率：500円/時間 固定費（月額）：5,400,000円

* 製造間接費は直接作業時間を基準として製品に標準配賦される。

4. 当月実際発生額

直接材料費：@ 510円(実際消費単価) × 25,800kg(実際消費量) = 13,158,000円

直接労務費：@ 780円(実際消費賃率) × 12,800時間(実際直接作業時間) = 9,984,000円

製造間接費：12,032,000円